

BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM NEWS

優品でたどるヨーロッパ・モード

4月15日～6月13日

今日のモードの基となった18世紀のロココ時代から1970年代までのヨーロッパの女性のモードの変遷と、その流行が生み出された背景を紹介しました。展示の解説パネルには、文化アカデミックアーカイブセンターの協力により、"AFP World Academic Archive" の800万件に上る画像アーカイブの中から、肖像写真や報道写真を多数取り入れました。流行の先端をいくドレスにはその時代の感性や社会背景が色濃く反映されていることが実感できました。



赤い服 ―日本と世界のさまざまな赤―

7月7日～9月30日

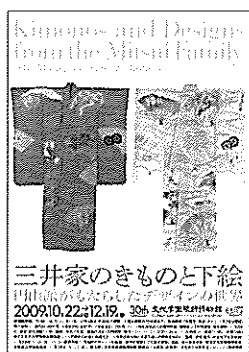
「赤」は太陽や生命力を表す色として、魔除けとして、また権威を表したり、華やかさを演出する色としても使われています。展示では、所蔵品の中から日本をはじめ、世界約40か国のさまざまな赤い服や服飾品を紹介し、それぞれの地域の「赤」の持つ意味を探りました。赤い服を地域別に展示したことで、それぞれの地域の特徴、さらには地域を越えた共通点などが浮かび上がり、「赤」の奥深い世界を認識していただくことができました。



三井家のきものと下絵 ―円山派がもたらしたデザインの世界―

10月22日～12月19日

江戸時代の豪商として知られる三井家に伝来したきものと、きもの制作のための下絵70点を展示しました。これらの意匠には、写生にもとづいた表現を特徴とする円山派の影響が見られ、また、贅沢な染織技法が用いられています。一般のきものとは異なり、三井家ならではの意匠や染織に感嘆の声が寄せられました。オープンに先立ち、関係者をお招きし、内覧会とレセプションを行いました。



テープカット 左から
亀屋山大典寺 長谷部真道住職
国立文化財機構理事長・京都国立博物館館長 佐々木丞平氏
文化学服飾館博物館 大沼 淳館長

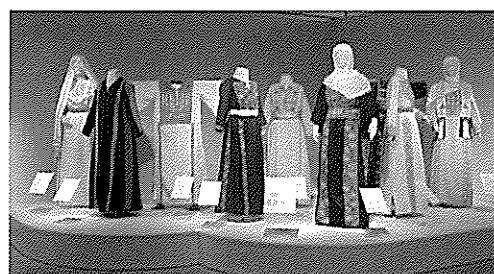


『三井家のきものと下絵』
カラー 104、モノクロ 28 ページ
A4 ワイド判 2,000 円

パレスチナの民族衣装

'10年1月26日～3月14日

イスラエル建国以前の20世紀前半のパレスチナの民族衣装を中心に紹介しました。ドレスには、地域ごとに特色のある文様が刺繍で表されており、ふるさとの地を追われたパレスチナ民族の貴重な財産といえます。伝統的なドレスとともに、難民となった20世紀後半のドレスも展示し、政治的混乱や社会状況の変化が衣装に与えた影響を探りました。衣装の他に、お守りの意味を持つ銀の装身具、さらに、周辺地域の衣装も展示しました。



20世紀後半のパレスチナのドレス

館外の展示への協力

所蔵資料を貸出し、館外の展示に協力しました。

- 「ヨコハマ開港とシルク」展・・・クリノリン・スタイルのドレス 1点
6月2日～8月30日 会場＝シルク博物館
- 「戊辰戦争後の会津」展・・・秩父宮勢津子妃殿下着用中のドレス 2点
7月18日～9月9日 会場＝松城天守閣郷土博物館
- 「激動の明治国家建設」展・・・昭憲皇太后着用の中礼服 1点
11月5日～27日 会場＝衆議院憲政記念館



クリノリン・スタイル
のドレス



昭憲皇太后着用の中礼服

服飾博物館の取り組み

皆様が気軽に何度でも訪れたいような博物館を目指し、当館ではさまざまな取り組みを行っています。皆様からの声も参考にして改善点を見だし、問題解決の方法を探り、よりよい環境作りに努めています。

より見やすく ― 照明のLED化と新型展示ケースの導入 ―

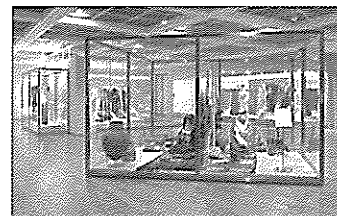
アンケートに「展示室をもう少し明るく」、「作品をもっと近くで見たい」といったご意見が多く寄せられています。しかし、染織・服飾資料は、光源からの紫外線や赤外線、空気の乾燥や埃など、展示中の環境から褪色や繊維の劣化などが起こりやすい繊細な資料のため、なかなかご要望に添うことが難しい状況にあります。

そうした中でも、一昨年度は展示ケース上部ヘシートを貼ることによって、ケース天井部からの光が観覧者の目に入らないようにしました。それに加え昨年度1月からは、熱を伝えない光ファイバーと、赤外線、紫外線をカットした電球色のLED光源を組み合わせ、スポット的な照明を実現しました。これによって、光による繊維へのダメージを防ぐと同時に、照明にメリハリがつき、布の質感や刺繍などが浮き立って見えるようになりました。LEDは、従来の電球と比べ消費電力量が格段に少なく、エコロジカルな光源として照明の主流となるでしょう。当館でも資料保存とエコの両方の観点から、LEDを積極的に取り入れていく予定です。

また一方では、透明のアクリルパネルを使い、さまざまな形に組み替えができる独立型ケースを開発し、展示資料を多方向から、また、より近づいて見ていただけるようになりました。これからも徐々にではありますが、展示品を保護しながらも皆様に楽しんでいただける展示方法を工夫していきたいと考えています。



電球色のLEDを光源とする光ファイバー・ライトのテスト作業



新型ケースを使った展示。資料を多方向から見るができる。

より気軽に ― ぐるっとバスへの参加、広報活動の強化 ―

服飾博物館では、展覧会を広く紹介し、皆様に気軽に博物館に足を運んでいただけるような取り組みを行っています。当館も参加する「ぐるっとバス」は、東京都内の博物館・美術館などの入場券や割引券が綴られたチケットブックで、都内70^{*1}の参加館を自由に選び、見学することができるものです。「ぐるっとバス」を利用すると、服飾博物館とともに他の博物館や美術館もお楽しみいただけます。さらに「ぐるっとバス」と電車の一日乗車券を組み合わせたセットもあり^{*2}、多くの路線が集まる新宿に位置する当館を利用する際には大変便利です。また服飾博物館での催しを広く知っていただくため、広報活動にも力を入れています。各展示の開始前には、新聞各社やテレビ局など、メディアへ積極的に働きかけ、今年度からはモバイル・サイトという新たな媒体を通じて展示情報を発信し、より多くの方々に展覧会への興味を持っていただき、ご来館いただけるよう努めています。

*1 2010年度参加館数

*2 東京メトロ、都営地下鉄の主要駅にて販売。



「パレスチナの民族衣装」展を紹介した『芸術新潮』



ギャラリー・トークの様子

より深い知識を ― ギャラリートークの開催 ―

服飾博物館では、各展示の会期中2回のギャラリー・トークを行っています。ギャラリー・トークは、学芸員が展示品の解説をしながら見学する催しで、解説文には書かれていない豆知識を交えたり、質問にお答えしながら、毎回和んだ雰囲気の中、行われています。スタッフにとっても、来館者の皆様の声を聞く良い機会となっています。

デジタル・アーカイブが変わります。

現在、服飾博物館のホームページ上から見ることのできるデジタル・アーカイブが新しくなります。今までと異なるシステムを採用したことによって、より充実した所蔵資料の情報をご覧いただけるようになります。

『ヨーロッパ・モード』刊行

『ヨーロッパ・モード』は、18世紀から現代までの女性モードの変遷をたどるものです。当館所蔵資料を中心に構成し、時代背景や社会状況などに触れながら、流行の移り変わりを紹介しています。ビジュアルで、わかりやすく解説し、服飾を専門としていない方々や、服飾を学ぶ学生におすすめの1冊です。

(A4判 40ページ カラー)

4月14日～6月12日

*5/16 は開館
*4/23、5/14 は19:00まで開館

ヨーロッパ・モード —18世紀から現代まで—

18世紀のロココ時代から1970年代までのヨーロッパの女性モードに焦点を当て、200年の変遷をたどります。モードは、それが生み出されたそれぞれの時代の政治、経済、産業、文化、科学技術などと深いつながりを持つことから、目に見えるモードの変遷にとどまらず、その背景も紹介します。また、現代衣服の源流ともいえるべき1920年代のモードを特集し、当時の社会状況やアール・デコなどの美術様式との関連についても触れていきます。



ディ・ドレス
1900年頃

ディ・ドレス
1925年頃

“スーパードレス”
1966年頃

7月6日～9月25日【夏期休館：8/8-15】

*8/1、8/22は開館
*7/9、9/10は19:00まで開館

世界の更紗

更紗とは、主に木綿布に手描きや型を使って文様を表したものを指し、比較的手軽にできる素朴なものから、複雑な工程を経て作られる精緻なものまでさまざまです。展示では、インドの色彩鮮やかな手描き更紗や木版更紗、インドの影響を受けたヨーロッパやロシアの銅板更紗、蟬防染によるジャワ更紗、アフリカの素朴なおおらかな更紗など、世界各地のさまざまな更紗を紹介し、地域による技法や表現の違いとともに、交易による影響なども探ります。



掛 布
インド 18世紀



ディ・ドレス
フランス？ 1835年頃

巻衣または被り布(部分)
セネガル 1970年代



10月15日～12月18日

*11/3は開館
*11/12、12/3 は19:00まで開館

日本の型染

型染は、紙や木などの型を用いて文様を表現する染色技法の一つです。日本では古くから行われ、多くの服飾に型染が用いられてきました。型を使用することによって生じる繰り返し文様や、デフォルメや省略化された文様は型染の大きな特徴です。そして、藍一色から多色を用いた華やかな型染まで、多様な広がりを見せています。本展では、江戸時代後期から昭和初期にかけての服飾を取り上げ、小紋、中形、型友禅などさまざまな型染を紹介します。



浴 衣 明治時代



具 足 下
江戸時代後期



祝 着 昭和初期

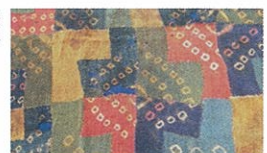
11年1月27日～3月14日

*2/27 は開館
*2/4、2/18 は19:00まで開館

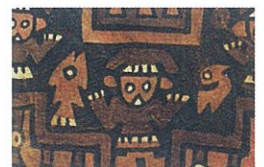
アンデスの染織

現在のペルーからボリビア北部に栄えたアンデス文明は、織物、編物、染物など多様な染織文化を育んだことでも知られています。それらは良質な木綿、リヤマやアルパカなどの獣毛に恵まれ、また領土の各地からもたらされる豊富な染料に支えられていました。特徴を良くとらえた鳥や魚といった身近な動物や、独特な表情の神像など豊かな文様表現も見どころの一つです。展示では紀元前1000年に遡るチャビン文化から16世紀のインカ文明まで、2500年にわたる優れたアンデスの染織を紹介します。

絨 織 染 製
ワリ文化期 (A.D.700-1000)



ジャガー文様描染製
チャビン文化期 (B.C.1500-B.C.1000)



神魚鳥文様描染製
チム文化期 (A.D.1000-1450)

* 上記の予定は都合により変更されることがあります。

Information

- 開館時間 10:00～16:30 *各展示会期中2回、19:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)
- 休 館 日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- 入 館 料 一般 500(400)円・大高生 300(200)円・小中生 200(100)円
*()内は20名以上の団体料金
- 交 通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心出口6)より徒歩4分
(地下道出入口O-1に隣接)

文化学園服飾博物館

〒151-8529
東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル
TEL. 03-3299-2387

学校法人 文化学園 <http://www.bunka.ac.jp>
文化女子大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院
/文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館

